

## 日本道徳教育学会神奈川支部 **研究大会2019** 開催！

研究テーマ： 道徳科の新時代に向けて「道徳科の指導と評価の一体化を目指して」

令和元年12月21日(土) 横浜市立みなとみらい本町小学校を会場に「日本道徳教育学会神奈川支部研究大会2019」を開催しました。実践提案、シンポジウム、ミニ実践講座、という内容盛りだくさんで、今年も充実した時間を過ごすことができました。



### ＜日本道徳教育学会神奈川支部 田沼支部長＞

今年は道徳教育にとって大きな1年であった。小学校、中学校で「特別の教科道徳」が全面实施された。今回の改革は、5度目の大きな改革である。1度目は、明治5年に公布された「学制」によって、修身科が教科に位置付けられ「修身口授(ぎょうぎのさとし)」として実施されたこと。2度目は、明治23年に「教育勅語」が發布されたこと。3度目は、明治36年に修身科の国定教科書が発行されたこと。4度目は、昭和33年に「道徳の時間」が特設されたこと。「特別の教科 道徳」の全面实施はそれらに次ぐ改革である。

### I <研究発表> 「ねらいの設定と教材の関わり」 原 陽平 先生(寒川町立一之宮小学校)

寒川町立一之宮小学校では校内研究の主題を「豊かな心を持ち、共に生きる力を育む道徳教育～楽しんで考える子どもの姿を通して～」と設定した。道徳科授業の課題として、①「ねらいに沿って考えを深め合う授業づくりの展開方法」、課題②「道徳的価値を理解させるための教科書の活用方法」を見出した。そこで友達との交流の中で自分の考えを深め、問題解決に向かって成長していく力をつけさせるために、パッケージ型ユニットを取り入れた授業計画の設定が有効であると考えた。研究手法として次の6点を設定した。

#### (1) パッケージ型ユニットを取り入れた年間指導計画の作成と構造化

1年間を通した大単元、学期を通した中単元、数単位時間を組み合わせた小単元を設定した。

#### (2) 「共通解」の獲得と「納得解」の紡ぎ

「共通解」を「多くの人が共有し合える望ましき」とし、納得解を「共通解を受け止め、どうしようとしているか自覚化して考えたこと」と考えた。毎時間の授業で、道徳的価値について共通理解をもち、それを基に個々の考えをもつことを目指した。

#### (3) 相談活動

ペア・グループワーク、ワールドカフェなどの相談活動の設定した対話的な学びを通して、自己内対話を促し、道徳的な学びを深める。表現するのが難しい児童の意見も反映され、主体的な学びに繋がった。

#### (4) 構造的な板書

板書を児童の思考の場として捉え、視覚的にわかりやすくダイナミックに構造化した。

#### (5) 道徳ノート

児童の学びの足跡を残すことや、見返すことで学びを見取ることができること、教師のコメントを入れて心の交流ができることをねらいとしてノート指導の充実を図った。

#### (6) 学習課題や共通解を求める手法の具体

実体験や教材の事前読みの感想等から児童の考えてみたい疑問を抽出し、それらを組み合わせる学習テーマを設定した。児童の考えをまとめ上げるのではなく、意見の中から共通する言葉やキーワードを拾い上げ、つなぎ合わせて「みんなの考え」を提示した。



これらの手立てを講じた結果、「活発な意見交流ができる」、「意欲的に取り組み楽しみに感じる子の増加」、「ねらいと道徳的価値に迫る授業づくりの実践力」などの成果があった。今後は「子どもたちの心をもっと揺れ動く授業の山場の設定」、「子どもの心をもっと揺れ動く場面を見取る評価方法」などの課題にも取り組んでいきたい。

## Ⅱ<シンポジウム>「道徳科の指導と評価の一体化」

シンポジスト:鈴木 賢一 先生(愛知県あま市立七宝小学校) 丸山隆之先生(新潟県燕市立燕中学校)

馬場尚子先生(相模原市立上鶴間中学校) 澤田浩一先生(國學院大学)

コーディネーター:本田 正道 先生(神奈川支部副支部長)

・評価は通知表のためではなく、子ども自身が自己を見つめるためのものと考え、発達段階にふさわしい評価を研究している。低学年では、自分ができたという喜びが大きい。中学年では、分かっているけどできないことが出てくる。高学年や中学生では、弱さを自分で認められるようになる。まずは、子どもの実態を一番に考えた道徳科の指導を行なっていくことが大切だろう。(鈴木先生)



・パッケージ型ユニットにおいて中心を貫くテーマに付随する内容項目の扱いを柔軟に考えていくとよい。内容項目にこだわりすぎずに、生徒が盛り上がった考えを大切に授業をしている。

道徳教育は、問題場面に遭遇したときの意思決定力を育てるためにある。(丸山先生)

・教科化に伴って道徳教育に関心をもつ母体が広がっていることは確かである。本校では研修を行うと同時に、管理職も含めたローテーション道徳を行なっている。また、学校だより、道徳通

信などを通して、道徳教育のねらいを発信し続けている。今後の社会のことを考慮すると子ども達の、自ら選択し生き方を考える力を高めていかなければならない。(馬場先生)

・「分かっているけどできない」はなぜ起こるのか。認知から実践をつなぐものは想いである。道徳の時間を子どもとの関係づくりに大いに活用して欲しい。評価については、子ども達が「先生、私のことを見てくれていた」と嬉しくなる文章を考えて欲しい。

(澤田先生)

## Ⅲ<講演会> 「道徳科授業ミニ実践講座」

### ★鈴木賢一先生による小学校編★

①「みんなで成長し合える学級づくり」・・・道徳の約束として、「友達」のために意見を言う、「友達」の意見から学ぶ、学んだことをさらに「友達」に伝えるということを伝えている。

② 成長を実感できる授業と成長を後押しする評価・・・単元(ユニット)から「学びのつながり」を創り、「学びの積み重ね」から深い学びを生み出した。「4年生/人の思いや気持ちを深く考えよう」というユニットでは、「第1時・C 公正、公平、社会正義」、「第2次『わたしのいもうと』A 善悪の判断、自律、自由と責任」、「第3次『さち子のえがお』D 生命の尊さ」第4次『愛する』という言葉以上の愛情表現』で行った。

③通知表や指導要録の基本的な評価文の作り方・・・よさを見つけ、励まし、伸ばす「応援メッセージ」のつもりでかいている。



### ★丸山隆之先生による中学校編★

#### ①授業準備の提案

- ・目次順に教材を使う。(1回読んでみる)→内容項目(パッケージのテーマを確認)
- ・発問を設定する。(補助発問と中心発問)→教科書に例示されたものを参考に
- ・評価のための資料(データ)を確保する。→教科書(光村図書)では「私の気づき」と「学びの記録」。ポートフォリオ的には「スタッキング・シート」。

#### ②日常の授業をうまく回すために

- ・「発問」では、子供が理解できない言動(事象)が、なぜそうなった(した)のかを追及する。発言(シェアリング)は、他者のシエマに作用する。
- ・「議論・切り返し発問・対話」で、シエマの調節をする。
- ・「振り返り」の時に、道徳性の深化を自覚させる。「最も印象に残った意見は、何ですか(なぜですか)」

#### ③評価について

- ・「評価資料」を常に残しておく。例として「STACKING SHEET」を開発した。このシートから、「光ることば」を拾って「大きくくり」な評価をすることができる。

<シエマ:認知の構造、事象をとらえる概念(ピアジェ)>

(詳しい内容につきましては神奈川支部ホームページをご覧ください。)

<http://www.doutokukanagawa.com/>

